

感染リスクが高まる『5つの場面』

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会では、以下のような感染リスクを高めやすい具体的な場合が示されています。(令和2年10月23日 新型コロナウイルス感染症対策分科会)

場面① 飲酒を伴う懇親会など

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫

- ① 少人数・短時間で。
- ② なるべく普段一緒にいる人と。
- ③ 深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量で。
- ④ 箸やコップは使い回さず、一人ひとりで。
- ⑤ 座の配置は斜め向かいに。
- ⑥ 体調が悪い人は参加しない。
- ⑦ マスクできない飲食中は会話を控える。
- ⑧ ステッカーを掲示するなど感染対策がしっかりしている店舗を利用する。



家庭内の場面では

- ① 必要に応じてマスク着用
- ② こまめに手指消毒
- ③ 定期的に換気する
- ④ 症状があったら外出せず、**かかりつけ医**や**受診・相談センター**へ連絡
受診・相談センター ☎0120-567-747



新型コロナウイルス接触確認アプリのインストールをお願いします。

自分をまもり、大切な人をまもり、地域と社会を守るために、接触確認アプリをインストールしましょう。

厚生労働省 **新型コロナウイルス接触確認アプリ** (略称: COCOA)



新型コロナウイルス感染症の流行下における検査助成事業

新型コロナウイルスの感染に不安がある以下の方は、唾液によるPCR検査の助成を受けることができます。
対象者 ①町内などで新型コロナウイルス感染症陽性患者が発生した際の発生日から14日以内で65歳以上の方
や基礎疾患を有する住民で検査を希望する方

- ②居宅サービス(デイサービス・ショートステイなど)を利用する要介護者で検査を希望する住民の方
- ③広野町に帰省する学生(専門学校・大学・大学院生)で検査を希望する方

※風邪のような症状、発熱、強いだるさ・息苦しさがある場合は検査対象ではありません。かかりつけ医など身近な医療機関に電話でご相談ください。かかりつけ医がない・どこに相談してよいかわからない場合は 受診・相談センターへご相談ください。
受診・相談センター ☎0120-567-747 平日・休日問わず24時間対応
※濃厚接触者の方は検査できません。

費用 無料
検査場所 馬場医院
検査方法 唾液による新型コロナウイルスPCR検査 ※1~2mLの唾液を専用の容器に採取します。
検査結果 「陽性」の場合は保健所の指示に従っていただきます。
「陰性」の場合は14日間保健師による電話での健康観察を行います。
※検査の結果がわかるまでは外出を控えていただきます。

申込先 **広野町保健センター**
時間 平日 午前9時~午後5時
☎0240-27-3040 ※申込は電話受付のみとなります。



PCR検査について

1 検査を受ければ安心なの?

PCR検査は、ウイルスを特徴づける遺伝子の配列を調べるもので、少ない量のウイルスを検出することができます。
検査では疑陰性の可能性もあるため、陰性だからといって安心できるものではありません。医師の判断のもと、重症化を防ぐことが主たる目的です。
引き続き感染拡大防止対策に心がけてください。

2 唾液検査で大丈夫?

検査の方法には鼻咽頭ぬぐい液および唾液による検査があります。
有効性については、発症から9日以内であれば両方で良好な一致率が認められるとの研究結果が示されました。
また、無症状の方の鼻咽頭ぬぐい液PCR検査と唾液PCR検査を比較し、高い一致率を確認するこ

とができたことから7月17日からは無症状の方への唾液PCR検査を実施できるようになりました。

3 検査方法は?

専用の容器(滅菌容器)に1~2mL程度の唾液を自己採取してもらいます。採取場所は医療機関になります。

4 唾液採取の時間帯は?

現時点では、特段の制限はされていません。

5 唾液採取にあたって飲食や歯みがきに関する注意点は?

飲食や歯みがき、うがいの直後の唾液採取はウイルスの検出に影響を与える可能性があり、避けるべきです。目安として30分ほど空けることが望ましいようです。